

<p>事案名</p>	<p>高岡市の事案（富山県16-1）</p>
<p>分類</p>	<p>生産・保有 廃棄・遺棄</p>
<p>資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「陸軍科学研究所及び第六陸軍技術研究所に於ける化学兵器研究経過の概要（第一案）」昭和31年6月〔1〕</li> <li>・証言〔2〕</li> <li>・「本邦化学兵器技術史〔年表〕」昭和32年〔3〕</li> <li>・証言〔4〕</li> <li>・「旧軍毒ガス弾等の全国調査結果報告（案）」〔5〕</li> </ul>
<p>資料内容概要</p>	<p>富山県高岡市には、昭和19年に第六陸軍技術研究所の一部が伏木の民間工場に疎開して高岡出張所を開所し、同工場内に毒ガスの製造施設を設置した。終戦時に残存した毒ガスは、関係者によって廃棄されたとされる。</p> <p><b>生産・保有情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料によれば、終戦時の第六陸軍技術研究所高岡出張所は、富山県に位置し、人員は約200名で毒物製造の合理化（主としてきい剤及びちゃ剤）の研究を行っていた。〔1〕</li> <li>・証言によると、証言者（元高岡出張所勤務者）は、出張所の総人数は100名程度で、組織は3班に分かれており、第1班は「ちゃ剤」の製造、第2班は「きい剤」の製造、第3班は製品管理を担当しており、第1班、第2班は、各10名程度の人員であった。毒ガスの製造は、「ちゃ剤」は昭和20年6月に製造設備の試運転を1回のみ実施し、製造した青酸ガスをタンクに約200L保存した。また、「きい剤」の製造設備では、ウイスキー樽様のものが7から8槽設置されており、設備の運転は、1回から2回のみと思われると記載されている〔2〕。</li> <li>・高岡出張所では、主として青酸を製造しており、人員は200名であった〔3〕。</li> <li>・証言によると、証言者は（元第六陸軍技術研究所長）終戦時に高岡出張所にはイペリット入り鉄容器4個（約800kg）が存在していたと記載されている〔4〕。</li> <li>・終戦時に高岡出張所にはイペリット0.8tが存在していたと記載されている〔5〕。</li> </ul> <p><b>廃棄・遺棄情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・証言によると、証言者（元高岡出張所勤務者）は、終戦後4日から5日の間に、書類はボイラーで焼却し、器具は破壊後に廃棄処分した。「ちゃ剤」は水で希釈して同出張所横に流れる川に流した。「きい剤」は4～5名の人員が4tトラック1～</li> </ul>

	<p>2台で富山連隊の演習場に運び、焼却処分したとの話を処分実行者から聞いた。処分の際に2名が毒ガスの飛沫を浴びて顔面が爛れていたと記載されている〔2〕。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・昭和20年8月に保有していた毒ガスを演習場内で焼却処分したと記載されている〔5〕。</li><li>・証言によれば、証言者（元第六陸軍技術研究所長）は、鉄容器入りのイペリット入り鉄容器4個（約800kg）を、富山県城端町付近の陸軍演習場で3日間かけて所員が焼却したと記載されている〔4〕。</li></ul>
--	---